

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大学名	早稲田大学
整理番号	A-②-9
事業名	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">C</div>	これまでの取組状況等に鑑み、目的の達成が困難な取組があると考えられ、成果を見込めない取組については縮小・廃止し、財政支援規模の縮小が妥当と判断される。
(コメント)	
<p>本プログラムは、多層的な紛争に対して革新的な提案を行い、それを実践し得る次世代リーダーを育成すべく、早稲田大学、北京大学及び高麗大学校と共同で学部学生を対象とする教育プログラムを開発・実施することとしている。</p> <p>早稲田大学は多くの国際交流事業の実績を有し、そのノウハウを活かして受入・派遣学生の環境整備に取り組んでいるほか、きめ細やかな指導を行っており、本事業に参加する学生からの満足度は比較的高く、学習成果についても一定の評価ができる。</p> <p>しかしながら、ダブル・ディグリー（DD）プログラムを含めたキャンパス・アジアプログラムの交流学生数の実績は当初の目標からは大きくかけ離れており、極めて不十分な結果となっている。また、3大学における教育プログラムについても、プログラム独自のカリキュラムが合意・整備・実施されているとは言い難く、当初の計画が着実に履行されることが困難と判断せざるを得ない状況にある。こうした問題が生じている背景として、全学事業としながらも学内でのプログラムの認知度が低く、また相手大学においても同様の状況であること、さらには教員の積極的な参画が認められず、事業の遂行に必要な組織体制の確立等が不十分な点が懸念され、現時点で早稲田大学が示す交流学生の目標数の達成に向けた改善策では、残りの補助期間内に事業目的・目標を達成することは極めて困難であると判断せざるを得ない。このため、次世代リーダーの育成という事業目的の達成に向けて、大学全体での組織的な運営により引き続き取り組むことに加えて、補助期間終了後を含めたプログラム全体についての見直しを行うことが急務である。今後、DDプログラム、副専攻プログラム、インテンシブ・プログラムのうち、成果を見込めない取組については交流事業数の縮小あるいは一部廃止するなど、最大限効果が期待できる改善策を大学として策定する必要がある。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据え安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、事業を展開していくことが期待される。</p>	